

# 第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09030110

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ○事業期間 平成24年度から平成33年度
基本施策	3	水産業の振興	事業優先度	A		
単位施策	2	経営基盤の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)		
事業名	水産廃棄物処理料軽減対策事業					
事業期間	平成25年度～平成29年度					
事業主体	雄武町					
事業指標	ほたて原貝取扱量					
事業目標	89,000トン					
住民参加	無					
住民協働						
			見直し年度			
			担当課	9 産業振興課		
			関係課	#N/A		
			ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業		
			関係例規・法令名			
			関係個別計画名			

132	全体計画 事業内容	平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	ほたて原貝の加工時に発生するほたてウロ等の残渣物に対する廃棄物処理料の負担軽減対策を行う。  町助成額 5,500円/トン	年間ウロ処理量 1,000トン 町補助金 5,500千円	年間ウロ処理量 1,150トン 町補助金 6,325千円	年間ウロ処理量 560トン 町補助金 3,080千円	年間ウロ処理量 460トン 町補助金 2,530千円	年間ウロ処理量 1,150トン 町補助金 6,325千円	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	23,760	5,500	6,325	3,080	2,530	6,325
財 源 内 訳	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	23,760	5,500	6,325	3,080	2,530	6,325
実 績 事 業 費	事業費(千円)	19,029	5,125	6,234	3,444	4,226	0
財 源 内 訳	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	19,029	5,125	6,234	3,444	4,226	
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		年間ウロ処理量 931.6t ホタテ原貝取扱量 19,925t	年間ウロ処理量 1,133.5t ホタテ原貝取扱量 20,651t	年間ウロ処理量 626.2t ホタテ原貝取扱量 11,992t	年間ウロ処理量 768.4t ホタテ原貝取扱量 10,157.3t	
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	20,800	23,800	13,800	6,800	23,800
第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	93%	99%	112%	167%	0%	
	全体達成率	22%	48%	62%	80%	80%	
	備考欄						

事業名	水産廃棄物処理料軽減対策事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	水産係長	高田 勉

様式1  
平成28年度実施  
平成29年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	水産加工業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	ほたて原貝取扱量									
【抱える課題やニーズは】	地場産原貝不足による移入コスト、原貝価格の上昇による加工コスト上昇及び加工残渣物処理費用負担による経営基盤の低下。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値									
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	加工コスト低減により、水産加工業の経営基盤の強化を図る。	①	ほたて原貝取扱量(地場産ほたて貝取扱量+移入ほたて貝取扱量)	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成28年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>9,400 t</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>10,157 t</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>108.1 %</td></tr> </table>	目標年度	平成28年度	目標値	9,400 t	実績値	10,157 t	達成度	108.1 %
目標年度	平成28年度											
目標値	9,400 t											
実績値	10,157 t											
達成度	108.1 %											
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	地場産ほたて貝生産20,000t体制の確立を目指している中、脆弱化した水産加工業の経営基盤の強化を図ることで、生産から流通までの一貫した地域経済基盤の安定強化を図る。	②		<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>平成27年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td>#DIV/0! %</td></tr> </table>	目標年度	平成27年度	目標値		実績値		達成度	#DIV/0! %
目標年度	平成27年度											
目標値												
実績値												
達成度	#DIV/0! %											
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	事業実施団体への補助金の支出	雄武水産施設利用協同組合が町内加工業者から徴収するほたて貝加工残渣物の廃棄物処理手数料に対する補助金の支出										

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	ほたて貝は生産量・生産額とも本町の主力魚種であり、生産から流通までの基盤を確立することは、地域経済の活性化・雇用の増大につながることから、町が支援する必要がある。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	災害に伴うほたて原貝の大幅な減産の状況ではあったが、水産加工業者の自助努力により、他地区からの移入が増加し、目標値を上回ることができた。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

課題あり	<input type="checkbox"/>	判断の理由	ほたて貝減産に伴い、仕事をつくるためにほたて貝が製品化されている影響により、施設での処理がほとんど行うことが出来ず、民間での処理とした。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	加工業者が負担する廃棄物処理料のおおむね3分の1を補助することとしている。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
<b>B</b>		
ほたて貝減産によるほたて貝の製品化が影響し、施設ではなく民間での処理となったが、水産加工業における負担軽減の一助となっている。		

今後の展開方向  
(Action)

継続/現状維持		
地場産ほたて貝については、増産体制の確立が途上であり、移入貝の依存度も高く生産コストが増大しているため、引き続き支援する必要がある。		

※展開方向の区分  
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更  
○終了 ○休止 ○廃止